

2025

12/19

金

第1部 演題

冬季に流行する 感染症(病気)について

第2部 演題

家族で守る胃の健康 ～ピロリ菌感染と除菌の大切さ～



第1部 講師



感染症科

教授 渡邊 秀裕 医師

第2部 講師



健診予防医学センター

臨床准教授 岩田 英里 医師

- ①コロナの間はなかったはなぜ? コロナはもう大丈夫なの?
- ②インフルエンザはなぜうつるの? 新型は大丈夫なの?
- ③冬季に流行する感染症の対策と予防

2020年に始まった「コロナ禍」、大変な苦労をしながら、2023年5月に5類移行になり、何とかしのぎ切ったと思っていたら、2024年インフルエンザウイルスの大流行が起きました。2025年は2024年より4週程度早く流行し講演のころはかなり増加していると思います。冬季に流行するインフルエンザウイルス、RSウイルス、ノロウイルスなどの感染症は「コロナ禍」の間、影を潜めどこかに隠れていたように思える。なぜ「コロナ禍」では流行しなかったのか?本公開講座ではコロナを含めた今後について、上記の3点を中心に解説していきます、皆さんの感染対策と予防の一助になれば幸いです。

Helicobacter pylori(ピロリ菌)は、胃炎や胃・十二指腸潰瘍、胃癌の原因菌として知られています。感染の多くは幼少期の家族内感染によるものです。そのため、家族の中に感染者がいる場合、他の家族も感染している可能性があり、家族単位での検査と除菌が重要です。また、除菌が広く普及するようになり、除菌後の方が多くなってきた半面、除菌後胃癌の増加も問題になっています。本講演では、ピロリ菌の感染の仕組み、家族内感染の実態、除菌療法の方法とその効果、さらに除菌後にも残るリスクや定期的なフォローアップの必要性について、最新の知見を交えてわかりやすく解説します。家族ぐるみで胃を守ることが、将来の胃癌予防につながることをお伝えします。

日時 2025年12月19日(金) 開場16:30 開演17:00～ 閉演18:30(予定)

会場 東京医科大学病院 本館9階 臨床講堂(最寄駅:丸ノ内線西新宿駅)

申込 事前の申込は不要。当日は会場に直接お越しください。

※尚、座席数に限りがございます(360席)。満席の場合は入場をお断りする場合がございますので予めご了承ください。